ESPERANÇA

2013 年 8 月　第 6 号

発行：
特定非営利活動法人エスペランサ
連絡先：090-3714-1892（堀西）
E メール：tabkyo-p@sky.plala.or.jp

＊エスペランサとは「希望」という意味です。

出雲で味わう本場の味！
ブラジル料理店＆フィリピン料理店 ただいま営業中！

今年４月１日（くしくも同日！）出雲にオープンしたブラジル料理店とフィリピン料理店をご紹介！

ブラジル料理　CANTINHO BRASILEIRO
＊出雲市渡橋町 203-5（1 階）　TEL:080-6348-5607
＊10:00～14:00（日曜定休）

フィリピン家庭料理　COCINA
＊出雲市今市町 916-8-1B　TEL:0853-24-7224
＊11:00～15:00、19:00～24:00（火曜定休）

■もう一度出雲にブラジルの味を…！　CANTINHO BRASILEIRO（カンチンニョ・ブラジレイロ）

CANTINHO BRASILEIRO は、以前ブラジル料理店「サボローゾ」（現在は閉店）で料理の腕をふるっていたオガタ・アンジェラさんが、夫のジョルジさんとともに「ここに住むたくさんのブラジル人のために、もう一度出雲にブラジル料理の店を…！」と、自らお店を出すことを決意。定番のフェイジョン（豆煮込み）とブラジルソーセージなどのセットや、ボリューミーなハンバーガー、サクサクのパステウ（牛ひき肉などの包み揚げ）など、豊富なメニューが魅力。市内はもとより、大田などからも来店されるたくさんのブラジル人のお客さんのほか、最近は口コミで日本人のお客さんも増えているそうです。

■日本人も楽しめる本場のフィリピン料理！　COCINA（クッシーナ）

COCINA をオープンしたのは、出雲在住歴 16 年のゼナイダさん。来日前、サウジアラビアなど海外で働きながら料理の腕を磨かれ、来日後も、友人のために作ったパンやバイキング料理が「おいしい」と評判に。友人のすすめもあって、お店を開くに至ったそうです。おすすめは、豚肉や鶏肉などを甘辛く煮込んだ「アドボ」。日本の醤油をベースにした味付けは、本場のフィリピン料理と日本風のテイストがうまくアレンジされていて絶品！ほんのり甘いフィリピンのパンや、ビーフン料理、スイーツまで、こちらも豊富な品ぞろえ。色んな料理が楽しめるバイキング（日曜日のお昼）、ホームパーティー（要予約）も実施中です！

■多様な人たちの活躍が「まち」を明るく豊かに…！

オガタさんご夫妻、ゼナイダさんは、生まれ育った母国を離れ、日本で生活する中、自ら起業されました。その活躍は同じ境遇の人たちにとって大きな支えであると同時に、地域の活力にもつながっていると感じます。今年 6 月 22 日、「エスペランサ学習会」にゲストスピーカーとして来てくださったゼナイダさん。「（お店を開いた理由の一つは）フィリピンの女性にもこういう能力があるということを日本の人に見てもらいたかった」との言葉がとても印象的でした。

～お互いに住みやすい地域へ～

文：森櫻ジャネット（松江ピノイカピットビスィグ）

わたしは、森櫻ジャネットです。今から 20 年前にフィリピンから来ました。フィリピンについて少し紹介したいと思います。正式名は「フィリピン共和国」で、人口は約 8,700 万人、大小合わせて、7,107 の島々があります。日本からは飛行機で約 4 時間で行くことができ、意外と日本に近い国です。

初めて来た時は、夏でした。その時はフィリピンとあまり変わらない気候でしたので、平気でしたが、冬になり大変でした。寒さに全くなれていなかったので、すぐに風邪をひいてしまいました。でも雪を初めて見た時はとても感動したのを覚えています。日本に来た頃は、「挨拶」程度の日本語しかわからなかったので、とても不安でした。いろいろな本を買って勉強しましたが、なかなか覚えることができませんでした。夫と話をする時も、本を見ながら話をしていました。その後、子供ができました。大変うれしかったです。しかし、日本語がわからなかったので、不安な気持ちでいっぱいでした。子供が病気の時、病院に連れていきましたが、その時の子供の状態を先生に説明することが出来ませんでした。また、子供が学校に行くようになり、学校からの「便り」を見ても理解することができず、子供につらい思いをさせたこともありました。

この様な経験から、同じ悩みを持つフィリピン人が集まり「松江ピノイカピットビスィグ」（フィリピン人同士、腕をがっちり組もう！の意味）を 2007 年に立ち上げました。同じ年には雲南市で「サマーキャンプ」を開催しフィリピン人が地域社会にとけこんでいく活動をしています。また、島根県の「県民協働事業」に応募し、フィリピン人が地域の中で自立していく支援事業として「日本語」と「パソコン」教室を行いました。そして、「松江ピノイカピットビスィグ」現在の代表浜崎エバンジリンさんは「不安を持って日本に来るフィリピン人に対し、私達がその不安に対する援助者になりたい」という気持ちから、財団法人自治体国際化協会助成事業の「外国人リーダーのための日本語講座」を今年の 5 月から 7 月まで受講しました。これは、外国人住民が経験や知識を生かし、同じ地域に住む外国人への支援や日本人住民との橋渡し、災害時の通訳・翻訳支援などの担い手として活躍できるよう、日本語コミュニケーション能力の向上を図る目的でした。

そして今、私が一番困っているのは、「日本料理」です。いつも「フィリピン料理」を作っているので、夫や子供達に「日本にいるから日本料理を作ってよ。」とよく言われます。私も「日本料理を作りたい気持ちは、山ほどありますが、自信がありません。これから勉強しないといけないと思っています。そういう勉強の機会があればとても助かります。私達は、日本人の皆さんと助け合ってお互い住みやすい地域にしたいと願っています。どうぞ、皆さん、これからもよろしくお願いします。

日本ベトナム国交 40 周年記念事業　第１回「ベトナム人の日本文化体験学習講座」

★今年は日本ベトナム国交樹立 40 周年の年です。
この記念事業「両国市民交流の集い」へ向けてプレ講座を計画します。

＊開 催 日 時：９月１５日（日）９時３０分～１３時ごろ
＊集 合 場 所：松江市西川津町（島根大学正門）
＊見学コース：旧家庭園見学：八重垣～玉造湯神社～他見学（コース・時間帯の一部変更あり）
＊募集参加者：１０人（ベトナム人優先・日本人ボランティア数人）
＊参加負担金：一人１００円（お菓子／湯茶代）
＊事 業 主 催：NPO 法人エスペランサ
＊参加連絡先：江角　TEL：０９０－９７３３－０９１０
※ベトナム人送迎車提供や交流希望の日本人の方を募集します。

ご報告！

大田地域の国際交流史調査活動

朝鮮渡来の風習や金属加工施設の現地学習会に、参加者感動！

正月明け 1 月 13 日（日）、大田市五十猛町大浦地区では 1 週間前から朝鮮半島南部の風習の仮屋（グロ）が建ち、地域の皆さんがグロに集い、モチ焼きなど交流されている。今回、NPO エスペランサが朝鮮半島の渡来文化現地見学会を呼びかけたところ、大田や松江などから 25 名が参加し、数 10mの大竹を軸に予想以上に大きな「グロ」に入り、グロ体験ができました。そして、大浦漁港を見下ろす丘に鎮座する「韓神新羅神社」を見学した。多田房明さん（島根民俗学会理事）から説明を受け、ここが朝鮮半島渡来文化の地であると実感。

この後、大田市鳥井町の海辺に残る「百済鈩」へ移動。この地は朝鮮半島そのもの「百済」の地名。古代に朝鮮半島の渡来人が住み、金属加工を行っていたと島根県地名辞典に記述。江戸時代には鳥取の「日野鈩」を日野川～日本海ルートでこの地まで運び、農業用金属機具を製造し、遠く関西や九州方面へ販売するなど金属交易で栄えた。当時、大田周辺では鳥井、大浦、宅野、温泉津の 4 ヶ所で鈩加工が行われ、江戸期に隆盛を誇ったという。「百済鈩」現地では久手町の松原さんが鈩搬入や鈩製品を搬出した河川や今も残る鈩施設跡で説明され、参加者は熱心に聞き入った。この後、東部公民館で松原さんが百済鈩、多田さんが大田の朝鮮文化の講演をされ、有意義な現地学習会になりました。今後も、大田市において多様な国際文化が色濃く残る地域調査を継続していきます。

♪松江・出雲「ヨーロッパ文化紹介／市場」開催へ♪

５ヶ国友好団体が企画！！
「ＬＡ　ＬＡ　♪　ヨーロッパ共同事業」

島根県東部では 5～6 年前から韓国や中国、台湾など近隣諸国と共にヨーロッパ諸国の観光客も増加し、また地域においてヨーロッパ各国友好団体も活動しています。このため「ヨーロッパ文化」という共通の家で、松江・出雲で地域文化との融合へ向けて、NPO エスペランサの呼びかけによりフランス・ドイツ・アイルランド・オランダ・フィンランドそして NPO エスペランサ 6 者により共同事業「ＬＡ　ＬＡ　♪　ヨーロッパ共同事業」実行委員会が発足しました。今後、数年間、松江市や出雲市において、少しずつヨーロッパ文化や諸国紹介、ヨーロッパの食材や産品の販売や文化紹介へ欧州市場の開催などを準備していきます。こうしたヨーロッパ文化の取り組みに関心のある方のご協力ご参加をよびかけます。

第１回講座
フランス／アイルランド生活文化紹介講座

＊日　時：９月７日（土）　１３時３０分～１５時３０分
＊会　場：出雲市総合ボランティアセンター
＊講　師：フランスとアイルランド出身者
＊参加費：無料
＊連絡先：NPO エスペランサ（江角）　TEL：０９０－９７３３－０９１０

ブラジル生活体験レポート　～その２～

文：家島雅美（松江市）

私は昨年６月末まで JICA シニアボランティアとして２年間ブラジルで活動してきました。この機関誌で皆さんにブラジルの魅力を紹介するシリーズをお送りしていますが、今回はその第２弾です。

ブラジルと言えば多くの方がまず「アマゾン川」を思い浮かべるのではないでしょうか。今回はそのアマゾンの魅力をたっぷりお伝えします。

アマゾン川はアンデス山脈から大西洋に流れ、その流域面積は世界最大です。本流のソリモンエス川はコーヒーのような茶褐色、ネグロ川はジャングルの樹液が溶け込み黒く濁っています。どちらも淡水ですが水温や比重の違いから、二つの川は混じりあわないまま二河川合流地点を起点に 10ｋｍも帯状に流れるのです。なんとも不思議な光景です。雨季と乾季では水位が 20m も違うところがあり、数十万平方キロの熱帯雨林が雨季には水没するといわれています。このアマゾンの熱帯雨林は世界の CO2 の４分の１を酸素に変えるのです！

1908 年の笠戸丸移民に始まり 1970 年代まで多くの日本人がブラジルに渡ったのですが、先人たちのブラジルにおける功績は本当に偉大でした。中でも、収穫したコーヒー豆を入れる袋の原料であるジュート栽培を成功させたことは、ブラジル政府の日本人に対する評価を絶大なものにしました。アマゾンのジャングル、過酷な気候に耐えながら、何度失敗してもあきらめず改良を重ねて、ついにそれまで輸入に頼っていたジュートを国産できるようにしたのです。川にはピラニアやワニが泳ぎ、ジャングルには大蛇や猿や豹がうろつき、マラリアや黄熱病などの熱帯病で命を落とした方も数多くいました。ブラジルのどこを旅しても親日家が多いのは、こうした先人たちや日系人の方々の努力のたまものです。

アマゾンの中心都市マナウスには中世の建造物が多く残っています。天然ゴム景気で儲けた大富豪によって 19 世紀に建てられた**アマゾナス劇場**は、大理石造の壮大な建物で一見の価値があります。マナウスは来年のワールドカップ会場でもあり、街中が急ピッチで整備されています。次回はユネスコ世界遺産**イグアスの滝**です。お楽しみに☆

松江市内で「ロシアの夕べ」を開催！ロシアの文化を楽しむ！

４月 13 日（土）夜、NPO エスペランサは松江市菅田会館において、４時間に渡り、ロシア料理教室やロシアの生活・文化、各地紹介やビジネス報告、ロシア民謡合唱やギター演奏でロシア音楽を楽しむなど『ロシア友好の夕べ』を開催しました。これに市民 25 人が参加し楽しい一時を過ごしました。また、この夕べに松江や境港、浜田からロシア人４人、中央アジア：キルギス出身の２人参加。参加者は初めてロシア料理を味わい、ロシアの生活・文化、イルクーツクやモスクワなど各地を知り、会場には赤いロシア人女性服「サラフアン」が展示された。「ロシア友好の夕べ」には松江市の中学生や大学生各２人、ロシア人４人、島根大学キルギス人２人、松江市産業課担当者も出席されロシア経済交流を報告された。ロシアは日本海を介した日本の隣国であり、松江市は近年、ロシア・ウラジオストック市で地域商品販売会を開催するなどロシア交流はヒト・文化から産業分野へ発展しています。今回のロシア友好事業を受け、８月には松江市民など６人がウラジオストックを訪問し、ロシア人の生活や産業視察、日ロ市民交流の拡大計画を進めていきます。